

目指す 学校像	○学力の向上を図り、グローバル化・多様化する社会に通用する人材の育成を目指す。
	○主体的に学び、活動する姿勢を育み、自ら考え、判断し、行動できる人材の育成を目指す。
	○部活動等の課外活動に意欲的に取り組み、活力ある学校を目指す。
	○健全な道徳観を有し、敬愛・友愛の情をもって他者と協調し、社会に貢献できる人材の育成を目指す。

昨年度の成果と課題	本年度の重点目標	重点目標	達成状況	
・東北大10名ほか、京都大・東京工業大・名古屋大・北海道大・旭川医科大などの難関国公立大学に合格し、筑波大にも医学類2名を含めて10名が現役合格した。茨城大には50名が合格するなど、国公立大学・大学校を合わせて188名の合格者を出した。 ・私立大学の合格者は早稲田大・慶應義塾大をはじめとして827名(短大12名含む)となった。 ・国公立大学医学部医学科に11名、薬学部に23名が合格した。 ・難関国公立大学に連続して合格者を出すとともに、一人ひとりの希望に合った進路実現を目指す。 ・連続15回の男子駅伝ははじめアーチェリー・空手道・書道・写真が全国大会等で活躍した。県内で、硬式野球がベスト8、女子駅伝が準優勝、女子バスケットボールが3位、軟式野球が3ブロックの一つとして優勝し、競技かるた同好会も個人が準優勝するなど、各部・同好会がコロナ禍による制約の中でも活躍した。 ・部活動の一層の活性化を図り、文武両道を目指す。	・授業の質の向上を目指す。	・タブレット導入5年目。全生徒がタブレットを所有する充実したICT環境の中で、コロナ禍でも継続的に主体的で効果的な学びを実現し、大学入学に対応できる学力を身に付けさせる。	5	・教員の技能が向上し、工夫した活用ができるようになり、コロナ禍の中でも、これまでの経験をいかして、柔軟に対応している。
		・十分な教材研究を積み教員間で授業見学を行ったり、コロナ禍の下安全に十分配慮しつつ外部の情報を受け入れたりすることで研鑽し、質の高い授業を展開できるよう努力する。	4	・昨年度同様、コロナ禍の制約上、他校参観は控えたが、新規採用教員の公開授業参観の機会などを通じ、自己研鑽した。
		・生徒からの授業アンケートの結果を指導に生かし、常に授業の改善・工夫に努める。	4	・生徒の要望や感想を受け止め、授業の改善に努めている。
	・きめ細かい進路指導を実施する。 ・国公立・難関私立大学等、希望する大学に多数の合格者を出せるよう努力する。	・個別面談・LHR・集会をはじめとして、学校生活の各場面で生徒をよく観察・把握し、生徒の適性や希望に応じたきめ細かな進路指導を工夫して行う。	4	・各学年とも適切な時期に三者面談や二者面談を実施し、生徒のより良い進路選択が実現できるように、支援を行っている。
		・コロナ禍でも、安心安全に十分配慮し、可能な範囲で、各種講演会や各種研修会を実施し、教育の現状や実態を十分理解して、幅広い見識をもって進路指導にあたる。	4	・昨年度同様、コロナ禍の制約があったが、可能な限り外部から講師を招き、進路講演会やPTA講演会での研鑽に努めた。
		・新入試問題の傾向分析と模擬試験結果の分析を、定期試験・達成度確認試験の作問のスキル向上に活かし、日々の学習活動や放課後ゼミ活動をととし、生徒の学力の増進を図る。	4	・新入試の2年目となり、前年度の資料を中心として新傾向問題研究等を行い、日々の学習指導にいかすように努めた。また、毎週、「水城の探究」の時間に、SDGs関連やその他の諸問題について調べ発表させ、新入試へも対応できる力を養った。
	・生徒が落ち着いて学習でき、安心して安全に学校生活が送れるような環境を整える努力をする。	・多様化する生徒の実態を踏まえて、教職員チームによる支援体制を整え、引き続き、進路変更の防止を目指し、生徒が充実した生活を送れるよう必要な研鑽を積み、対応する。	5	・2年目となる教育相談部がカウンセラーと連携し、多様な生徒にきめ細やかに対応し、進路変更の防止等にも対応できた。
		・通学路での交通安全指導により、交通ルール遵守と公共の場でのマナーを身に付けさせることを含め、成年年齢18歳の時代に一人前の社会人としての資質を備えられるよう研鑽する。	4	・生徒指導部の主導で全教員が毎週の朝立哨と毎月の放課後巡回を実施した。自治体や他校と登下校安全指導も行った。
		・情報化社会を生きる人間としての自覚を持たせ、SNS利用時の注意点などを踏まえたメディアリテラシーをしっかりと身に付けさせられるよう工夫する。	4	・情報等の授業や集会・LHRの機会を通じ、18歳成年にも言及しつつ、メディアリテラシーに触れて、トラブル回避に努めた。
		・普段から生徒をよく観察し、また面談やアンケートを活用し接していくことで、いじめの早期発見・未然防止に努める。	4	・年2回匿名のいじめに関するアンケートを実施するほか、普段の生徒の動向に留意し、問題の早期発見と対処に努めた。
	・募集広報活動を充実させる。	・本学の教育理念に共鳴する入学者を確保するために、組織的・計画的に広報活動をする。	5	・生徒募集部より中学校・塾に適切・丁寧に説明するほか、本校のHPを通じて、日々の学校の活動を外部に発信し続けている。
	・課外活動や特別活動を活性化させる。	・コロナ禍の中でも、安全に部活動など課外活動に多くの生徒が参加し、学業と両立し、充実した高校生活を送れるよう支援する。	4	・男子駅伝が16回目の全国大会出場を達成し、アーチェリー・空手道・競技かるた・写真・書道部も全国的に活躍した。水泳・女子駅伝・陸上も関東大会に進んだ。他部も、コロナ禍の中で、硬式野球や剣道男子が県ベスト4になる等の結果を残した。
		・清掃等の奉仕活動を通して公共心や社会性、他者を思いやる気持ちを養うとともに、環境問題を考えるきっかけを与える。	4	・日々の清掃活動を通じ、環境美化の習慣を身ににつけさせた。
		・生徒会や委員会等で、生徒がより主体的に活動できるよう、適切な助言・支援を行う。	4	・生徒会を中心とした文化祭の検討や美化委員会の道路清掃活動等、本年度新たに始まった活動を含め、助言・支援した。

1. 教科

評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	評価	総合評価	反省・次年度への課題
国語	・生徒の基礎学力の向上を図る。	・朝自習やゼミ学習の機会も活用し、授業時間以外での日常的な学習時間を確保する。特に、ゼミに関しては、基礎から応用まで幅広く講座を開講することで、学力層に応じたフォローアップを図る。これらを通じて、社会生活を送る上で十分な国語能力を身につけさせる。	4	4	・朝自習やゼミ内容を工夫して各学年コースの特性や学力層に合わせた学習を展開し、総合的な国語能力を身につけさせることはある程度できている。さらなる学力伸長のためには、基礎的な語彙能力の向上に力を入れることが必須である。
	・生徒の家庭学習習慣を確立する。	・授業の中で予習復習及び教科書にとどまらない自主的な取り組みの重要性和効果を継続して説き、生徒自身が主体的に課題発見と課題克服に取り組めるようにする。そのための課題を適切な分量とタイミングで提供し、家庭学習を中心とした自主学習習慣を定着させる。	4		・家庭学習用教材の配布や配信、授業中の小テスト実施などを通して、家庭での自主学習に取り組むことができる環境を整えている。授業担当クラスの担任やコース主任などとも連携し、生徒個々人に合わせたフォローアップを可能にすることが今後の課題である。
	・生徒に言語活動を通じた情報処理能力や表現力を養わせる。	・授業の中で多様な文章や問題に触れ、図表を含めた読解はもとより、グループワークやペアワークなども通して、自身の意見を述べる際の表現力を養う。また、ICT環境も積極的に活用することで、教員からのきめ細かい指導や生徒間の意見の共有を行う。	4		・教科書教材に関連させたデキストの提示による思考力養成、ICT環境や校外コンクールへの応募を活用しての表現力養成など、一定の成果を上げることができた。今後もより一層国語教育に求められる、複数資料を比較しての情報処理能力の養成に努めていく。
	・生徒の理解を深めるための授業スキルの向上を図る。	・教員間で授業見学や意見交換を行い、教材研究や授業方法を省みる機会を設けることにより、生徒の理解に合わせた授業を絶えず模索し、教科全体でスキルアップにつなげる。	4		・臨機応変な対応が必要な状況下であったこともあり、遠隔授業や授業動画配信、授業補助教材などについて担当者間で情報を共有し、授業スキルの向上に努めることができた。限られた担当者間になりがちなものを、教科全体に還元できるように心がける必要がある。
評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	評価	総合評価	反省・次年度への課題
地歴 公民		・我が国や世界の歴史・地理・文化の学習を通じて価値観や多角的な視点の涵養や多様性への理解、思考力を養う授業展開を積極的に行い、相互理解や共生に必要な知識を自ら習得できるようにするための探究活動・対話的活動を保障する。	3	4	・コロナの影響で十分な探究活動や対話的活動が行えない中、地理巡検等、積極的な活動もみられた。ただ、全体的には1年を通して活動を制限される時期が多かったため、満足するような活動ができたとは言えない。次年度以降、コロナ禍でも探究活動や対話的活動が保障できるよう教科全体で考えていきたい。
	・多様性を前提とした社会に生きる主権者として必要な政治的教養ならびに国際感覚・人権感覚を自ら習得し判断することのできる主体的学習者を育成する。	・基本的な知識に基づき、図表やデータを用いて生徒自身の主体的な理解を促す教育活動を通して論理的な思考力を育成し、そこで形成されたそれぞれの主張を他者に伝える表現の場を設ける。	4		・図表や資料を取り入れ、論理的に考えさせ思考力を養う活動は、社会科全体で定着してきている。表現の場に関しては、コロナの影響で十分に設けることができなかった。次年度以降、コロナ禍でも生徒自身の主張を他者に伝える表現の場を設けられるよう模索していきたい。
		・在学中に選挙権を取得し、また成年年齢が引き下げられるにあたり、社会の形成者としてふさわしい態度を養い、権利や義務の主体として能動的に行動する意義や法的なものの考え方を養うため、授業その他において得られる知識や活動が自身の人生や我が国および国際社会の将来とどのようにかわるかを意識するための言語活動などを保障する。	4		・模擬選挙をはじめとする体験的な授業や、生徒にとって身近な時事問題を取り上げ、自身の生活との関係性を持たせるなど、社会の形成者としての態度を養うことができ、公民科目のみならず教科全体で取り組むことができた。一方、言語活動に関しては、活動が制限された影響で十分な活動の場を設けることができなかった。次年度以降の活動に期待したい。
	・上記の目標を達成するための教員の取り組みに関する共通理解を発展させ、水城高校が目指すかつ21世紀に必要な学力観に沿った学習指導を行う。	・個々の教員の取り組みとして実践されてきた主体的・対話的で深い学びを支援する教育実践や教材研究、教材観の共有し共通理解を発展させ、生徒に身に付けさせるべき資質・能力の育成やその評価について、教員組織としての最低水準を高め、学習のデザインや筆記試験・探究課題の出題スキルを向上させる。	4		・遠隔授業での持ち回りの動画作成や達成度確認試験の作問、教員間での教材研究や授業観の共有など積極的な意見交換が行われた。科目によっては自主的な勉強会を定期的に実施しており、授業や試験問題作成のスキル向上につながった。次年度以降、新課程がはじまることから、今年度以上の意見交流を積極的に行いたい。
評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	評価	総合評価	反省・次年度への課題
数学	・生徒の基礎学力の向上を図る。	・授業重視を徹底させる。そのために教員一人ひとりが授業力の向上と生徒理解に日々努める。また、学年・教科担当者との連携を深め、より効果的な授業を展開するように努める。	5	5	・教科担当者同士、適度に話をし連携を深められている。授業重視で教科書、副教材、小テストなどを多用し、各担当者行っているのを、それを継続していきたい。
		・問題集を活用して演習量を増やし、基礎学力の定着を図る。また、小テストを実施して生徒の定着度を確認するとともに、定期試験・模擬試験の見直しをさせる。	4		・定期試験・模擬試験の見直しをさせるようにはつとめているが、テスト等が多く見直し等に時間をかけていないところもある。問題集を活用し、普段の学習量を増やしている。
	・生徒の家庭学習習慣を確立させる。	・教科書や問題集等から課題を定期的に出すとともに、日頃から自らの意志で取り組むことの重要性を説き、家庭学習習慣を定着させる。	5		・宿題を問題集やプリントで定期的にだし、家庭学習を定着させた。今後も自ら学習に取り組ませるよう、継続してつとめていく。
	・ICT教材を活用し、生徒の理解度を高めるような授業を展開する。	・グラフソフトや動画ソフト等を利用して、わかりやすい授業をするように努める。また、ALやファイル配布システム等を利用して、生徒の理解度を確認し、個々の生徒に適した教材を提供する。	5		・資料アーカイブ利用や、授業理解度をパソコン内に蓄積したり、授業動画作成など授業スキルは向上している。
評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	評価	総合評価	反省・次年度への課題
理科		・ICTの活用の仕方等、教員間で積極的に情報を共有する。 ・教科書だけでなく、時事問題との関連付けを行い、生徒の興味・関心を喚起する。	4	4	・校内研修会や教科会を有効活用し、ICTの活用方法についての情報共有をより一層はかる。
	・自然科学に対する関心を高める。	・観察、実験やデジタルコンテンツを積極的に取り入れてイメージを捉えやすくし、自発的な探究心も養う。	4		・新型コロナウイルスの影響で、例年に比べ実施できていない実験があったが、デジタルコンテンツ等を活用し、よりイメージを捉えやすく工夫する。
		・各コースごとに達成すべき目標を明確にし、教員間で共通認識をもつ。 ・教科書内容を理解・記憶させ、小テストや定期試験を用いてその定着を図る。	5		・生徒が覚える学習から考える学習へ速やかに移行できるように授業や小テスト、定期試験を工夫する。
	・基礎学力の定着を図る。	・模擬試験や入試問題の演習を通じて、応用力を養う。 ・新入試での得点力を養うため、新入試問題（思考的な演習問題など）の研究・分析をする。	4		・入試問題や共通テストの研究・分析を行い、授業での取り扱う内容やゼミ内容を工夫し、各学年コースの特性や学力層に合わせた学習を展開し、得点力の向上をはかる。

評価基準 5:十分達成できている 4:達成できている 3:概ね達成できている 2:不十分である 1:達成できていない

評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	評価	総合評価	反省・次年度への課題
保健 体育	・生涯を通して主体的にスポーツ活動に親しめる姿勢を養う。	・スポーツ活動を通して生まれる爽快感や楽しさ、各種目の技術ができた時の達成感や満足感を感じられる授業展開をする。 ・様々な種目のスポーツを授業で取り入れ、自分の得意なスポーツを見つけられるようにする。	5	4	・新型コロナウイルスの影響で生徒同士の接触プレーがある体育実技の授業の内容を制限しなければならない。その中でも生徒達が楽しめるよう、授業内容を工夫してスポーツ活動を意欲的に積極的に実施できるようにする。
	・保健の授業で学んだ知識や技術を自分の生活の中で役立て、更に実践できるようにする。ICT教材の活用を実施する。	・現在、日常生活の中で話題となっていることを中心に授業の中で取り入れ、実際の生活と結び付けて主体的に知識の理解を得られるようにする。 ・ICT教材(デジタル教科書等)を利用して探求し、興味関心を得られるような授業展開を図る。	4		・普段の生活の話題を取り上げ、身の周りで起こる事象に対処できる知識を身につけさせるようにする。デジタル教科書を活用し、理解度の向上を目指していく。確認テスト等を実施し、その結果をタブレットを用いて報告させ理解度をチェックする。
	・用具や施設を大切に使う態度を養う。また、安全に留意し自分の役割と責任を果たしながら互いに協力する態度を養う。	・授業で使用する施設や道具の準備・片づけを行うことで、生徒達に責任感や公共心を培うよう指導する。また怪我の防止上、安全に十分留意し助け合いながら学ぶ協調性を養わせる。	4		・体育用具の管理・施設等の使用に関し決められたルールをしっかりと守り、公共物を大切にさせる。新型コロナウイルス対策として授業開始前、終了後の消毒、体育用具の使用開始前と終了後の消毒、ソーシャルディスタンスの徹底やビブスの着用禁止を行うようにする。
評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	評価	総合評価	反省・次年度への課題
英語	・「聞く」「話す」「読む」「書く」を総合的かつ統合的に指導することで、実践的なコミュニケーション能力を育成するだけでなく、入試に対応できる英語力を身につける。また、Eラーニング系のコンテンツ導入により、さらなる良好な学習環境を作る。	・聞く力：初期段階において多くの英語の音声聞かせ、文字からではなく音声からの英語習得を図る。また導入したEラーニング系コンテンツの稼働率を上げるために、課題の配信や定期試験での出題を適切に行い、生徒が自ら学ぶ環境を作る。定期考査にも積極的にリスニング問題を組み込む。	4	4	・Eラーニング系コンテンツに関しては昨年度と比べて稼働率が上がってきている。各担当者が授業内で導入していることや、生徒への声かけを行っている効果大きい。今後もこれを継続したい。
		・話す力：正しい発音での英文暗唱を行ったり、英語で簡単に自分の意見を言えるようにする。また、聞く力と同様に、Eラーニング系コンテンツを導入し、日常的に学習できる環境を整える。ALTによる英語では生徒が積極的に英語を話すことのできる場を確保する。	4		・ALTによる指導により生徒が授業内で英語を話す機会が増えた。次年度は扱うテーマや活動内容をさらによいものにしていきたい。
		・読む力と書く力：英文法の基礎力をつけつつ、「聞く・読む」の活動を通して、英文の直読・直解を行う。また、文章の段落構成を意識させ、まとまりのある段落・文章をかけるようにする。また、英語検定の英作文に向けての対策を強化する。	4		・英文法指導や英文読解指導についてはよくできている。英作文に関しては各担当者ごとに工夫して対策を行っているが、今後は担当者ごとの差がでないよう、英語科全体で実施できる理作文対策計画が必要である。
	・学年と教科が連携し英語学習の基盤を作り、学校全体で生徒が積極的に英語学習に取り組める環境を作る。そして、生徒が自ら英語学習に向かっていくように仕向ける。	・語彙の習得：学年、コースと協力し、朝学習として単語テストを行うなどの活動をする。それを定期試験と連動させて、一層の定着を図る。また、授業内で単語の音声継続的に学ばせる。	5		・各コースの実情に応じてコースチーフの教員が責任をもって朝学習や定期試験への組み込みを実施してくれている。
		・文法の習得：授業では基本的な文法事項の定着を目指し、ゼミではその力を応用レベルまで向上させていく。反復練習を中心に行い定着を図る。	5		・コース学年で共通の文法教材を使うことも増え、文法指導は英語科として統一感をもって行うことができる。
		・動機付け：昨年に引き続き、授業の内容や教材を工夫し、生徒の動機付けを行う。また、英語検定などの資格取得を目指させることで学習意欲を高める。1年時に英検準2級、卒業までに英検2級の取得を1つの目標とする。	4		・コロナウイルス感染対策のため、これまでセミナーホールで一括して行っていた英検二次試験の対策ができなくなってしまった。そのため、Teamsで教材を配信することで、合格率の維持に努めているが、よりよい教材を提供できるように努めていきたい。
		・実践力の強化：大学入試の出題傾向や出題形式を教員が分析する。特に、新入試での問題の変化に対応する。教員自らが生徒に合った教材を作成し、入試に対応できる力を付けさせる。積極的に授業参観を行い、教員同士が互いに向上しあえる環境をつくる。	4		・教材作成に関しては各教員がそれぞれ工夫をこらして作成している。今後は積極的に授業見学を行ったり、研修会を行ったりすることで、各教員の指導能力を向上する場を今まで以上につくりたい。
		・指導力の強化：ICTを使った教授法に関して校内で研修会を行う。教員各自が外部の研修会などに積極的に参加する。	4		・NTT Docomoの方による研修会を受けるなど、各教員がEラーニング系コンテンツに対する知識を増やすことに努めている。今後もこの姿勢を継続し、生徒の学習をサポートしていきたい。
評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	評価	総合評価	反省・次年度への課題
芸術	・各科目の特質についての知識を深め、意図に基づいて表現する為の技能を身につけられるようにする。	・表現と身近な生活との関わりを理解した上で、各科目の基礎的な知識・技能を身につけ、意図に応じて方法を工夫した表現ができるようにする。	4	4	・基礎的な知識や技能を習得し、課題に対して活用できるようにする。
	・創造的な表現を工夫するとともに、芸術の良さや美しさを深く理解して味わうことができるようにする。	・各表現の特性や表現過程を理解し、自ら考え、判断し、調和・バランスを考えながら表現できるようにする。	3		・意図を持ち、活動バランスを考えながら取り組めるようにする。
		・鑑賞を通じて、対象の見方や感じ方を深め、工夫されている点や芸術的な価値を適切に感じ取れるようにする。	4		・知識・技能・表現など学習から身につけたものを基礎に、鑑賞対象の価値を感じ取れるようにする。
	・芸術を愛好し感性豊かな生活をおくると共に、来たるべき社会を創造していく態度を養えるようにする。	・鑑賞に関わる知識を得、その背景との関わりや自然と表現との関わり、さらに、社会における有用性を考えつつ、主体的で創造的な学習(表現)ができるようにする。	4		・社会と芸術の関わりに気づき、考え、主体的に創造的な学習に取り組めるようにする。

評価基準 5:十分達成できている 4:達成できている 3:概ね達成できている 2:不十分である 1:達成できていない

評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	評価	総合評価	反省・次年度への課題
家庭	・人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識を習得する。	・章末確認プリントや課題に主体的に取り組むことで基礎的・基本的知識を習得できるようにする。	4	5	・授業では確認プリントやSNSなどの資料を用い、日常生活で応用・確認ができるよう意識して行った。また、授業課題に取り組むことで、授業の内容を自分事として冷静に考える時間にもなっているようである。そのため、ほとんどの生徒が授業内容を理解できているようである。次年度もコロナ禍で限界があると思うが、ディスカッションおよび発表ができる授業展開を実践していきたい。
	・学習した知識と技術を活用し、家庭や地域の生活課題を主体的に解決する態度を育成する。	・家庭や地域の問題点を見つけ、その解決方法を考えるような課題に取り組むことで家庭や地域に主体的に関わるようにする。	5		・知識・技術の確認を兼ねて、実際にあったことの新聞記事やSNSを資料として自分たちの意見を書く・伝えることを実施した。次年度も生きた授業を心がけて生徒に伝えていきたい。
	・様々な実習を通して実践力を身につけ、日々の生活に生かせるようにする。	・被服実習を通して基礎技術(まつり縫い・ボタン付け等)を定着させ、日々の生活に生かせるようにする。	5		・今年度は調理・被服ともに実習を行うことができた。コロナ禍ということもあり、感染対策を考え調理実習については、1クラスの人数を半分に分けて実施した。前半調理を行った生徒は後半は教室で献立作成を行った。学年の協力なしでは実行できなかったと思う。次年度も同じように創意工夫を強いられると予想されるため、学年の協力をいただきながら、柔軟な対応で実習を乗り切りたい。
		・調理実習を通して生活に必要な実践力(食品選択・献立・調理・片付け・廃棄等)を身につけ、日々の生活に生かせるようにする。	4		
評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	評価	総合評価	反省・次年度への課題
情報	・Office系ソフトウェア(Word、Excel、PowerPoint)の習得。	・授業内でOffice系ソフトウェア(Word、Excel、Power Point)を用いた実習を行い、操作方法を習得する。	5	5	・Office系ソフトウェアだけでなく、動画作成ソフトにも取り組み、総合探究のプレゼン資料作成に繋がるような授業を行っていきたい。
	・情報リテラシーの習得。	・インターネットの利用や教科書を通して、正しい情報収集能力や情報モラル、著作権の利用等、情報リテラシーを学んでいく。	4		・定期試験の結果を踏まえると、情報リテラシーの習得は達成できていると言えるが、それを実生活にも落とし込んでいけるよう、さらなる指導が必要である。
	・プログラミング的思考の習得。	・ScratchやHTML、VBAといったプログラミング言語を通じて論理的思考を涵養する。	4		・次年度より新課程が始まることから、PythonやJavaScriptといったプログラミング言語の学習にも力を入れていく必要がある。
	・タブレットの利便性・可用性を確保。	・システム管理室と連携し、生徒がICT環境を円滑に利用できるようにする。	5		・軽微なシステムトラブルであれば、生徒自身でトラブルシューティングを行い、修復できるようリテラシーを身に付けさせるような指導が必要である。

評価基準
 5:十分達成できている
 4:達成できている
 3:概ね達成できている
 2:不十分である
 1:達成できていない

2. 校務分掌

評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	評価	総合評価	反省・次年度への課題
教務部	・教員の授業力向上に努める。	・タブレット、Teams、資料アーカイブ等を活用し、生徒の理解力向上のための授業が行えるよう、外部の研修会に参加できる機会が増えるように努める。	4	4	・教務だけでなく多方面から外部研修への情報提供が行われており教員の参加も積極的に行われている。継続的に支援していきたい。
	・より一層のペーパーレス化に努める。	・紙媒体の良さを理解、活用しながらも、書類や課題配布などでのペーパーレス化を進め、省資源と経費節減に努める。	4		・遠隔授業やライブ配信が定着してきているため、やみくもに課題冊子を印刷して配付することが無くなってきている。生徒がタブレット利用にさらに慣れていくこともポイントとなる。
	・保護者、生徒へ有益な情報提供に努める。	・新たに「学園広報部」としての様々な動画配信等を行い、委員会活動や部活動の活性化とともに在校生やその保護者に充足感を提供できるよう努める。	4		・現在実施されているイベントレポートやツイッターに加え、次年度は生徒による動画撮影と配信を拡充していく予定。今後とも保護者や外部への情報発信に努めたい。
評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	評価	総合評価	反省・次年度への課題
進路指導部	・学力の3要素(知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・多様性・協働性)を身につけた生徒を育成し、希望進路を実現させる。	・学力向上に資するゼミ学習を提供するとともに、入試分析や模試分析の結果を学年や教科に提供することで、進路指導力・学習指導力の向上を目指す。	4	4	・コロナ禍により年度当初の計画通りではないが、1年を通して大きな混乱もなくゼミを運営できたことは評価できる。進路指導部主体で模試分析等も実施したが、その情報を学内に還元することで、さらに学習効果の高い授業・ゼミを提供できるよう努力したい。
		・「総合的探究の時間」の活動を充実させるとともに、校外にも主体的な学びの場を広げることができる機会を提供する。	5		・探究学習に関しては、今年度からの指導体制で順調に実施できた。研究成果を発表する場としての「いばたん」へ参加した生徒も多く、実績も残している。次年度に関しては、地域との一体化を深め、さらに社会に関かれた教育活動を目指したい。
		・ポートフォリオやキャリアパスポート等の活用、また、スタディサポート等の結果をもとにした二者面談等を通して、学びのPDCAサイクルを生徒が確立することを援助する。	4		・キャリアパスポートは指導し易いものとなるよう本校独自の様式を作成した。実施されて間もないこともありまだ定着していないが、スタディサポートの結果等と共に、生徒の指導に積極的に活用できるよう情報共有したい。
評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	評価	総合評価	反省・次年度への課題
生徒指導部	・基本的生活習慣の確立を通じ、充実した学校生活を送れるようにする。	・教職員の共通理解を深め、足並みのそろったきめ細かい生活指導体制を整える。	4	4	・教員からの一方的な指導になり過ぎないように、教育相談部やカウンセラーとの連携をさらに密にしてい。各コース主任がリーダーシップを発揮し、コースの実情に応じた指導ができるようにする。
	・規範意識を持ち、きちんとした行動ができるようにする。	・交通ルールやマナーについて学び、公共の場での責任ある行動がどのようなものか考える機会を提供する。SNSでのモラルについても学びの場を提供する。	4		・ルールとマナーの違い、それぞれの重要性を生徒一人ひとりに気づかせる。それらを守ることの意義、守らないことで発生し得る諸問題に目を向けさせる。
	・自主的・主体的に物事に取り組み、勉学のみならず部活動や校外活動も充実した生活を送れるようにする。	・生徒会活動や各種委員会活動をさらに活性化させる。	3		・コロナ禍のため、活動が停滞した。オンライン等の活用も視野に入れていく。
	・安心、安全な学校生活を送れるようにする。	・いじめ等の問題について、早期に発見し組織的に迅速な対応を心掛ける。外部講師による安全講話、全校集会やHRでの話を通じて、事件・事故を未然に防ぐ意識を向上させる。	4		・いじめ調査の実施、集会などでの教員からの講話、外部講師によるSNS安全講話を行った。カウンセラーや教育相談部との連携をさらに密なものにしてい。
評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	評価	総合評価	反省・次年度への課題
保健環境部	・心身の健康の保持増進を図る。	・主体的に自ら健康管理ができるよう自己管理能力の向上を図る。 ・多様化・複雑化した健康課題を抱える生徒の支援の充実を図る。	4	4	・年度始めに実施する各種健康診断の結果を踏まえて、健康で充実した学校生活を送れるように自身の健康状態に関心をもたせたい。新型コロナウィルス感染拡大により、日常が失われ、また生活リズムを崩したりしたことで精神的に不安定な状態な生徒も見受けられる。コロナ禍で気づけることや成長できることもあるということを捉えて、今後に活かせるように促していきたい。
	・保健管理の充実を図る。また、コロナ対策として「学校の新しい生活様式」の確立を図る。	・健康で安全な学校生活を送れるよう環境の維持、改善を図る。清掃活動を通して美化の意識の向上を図る。 ・コロナ対策の基本として、①密を避ける②マスクの着用③手洗い消毒による手指衛生を徹底させる。 ・健康診断等から健康状態を知り、自らの健康に関心を持ち自ら保持増進する意識の向上を図る。	4		・コロナ禍にあり、ひとりひとりが健康に対しての意識が高まっている。うがい・手洗いの励行はもとより、検温や換気等あらゆる面でさらに徹底していきたい。引き続き、感染対策を講じながら「新しい日常」の確立に努めさせたい。また、体育科で毎年実施する体力測定等により、自分自身の体力の現状を把握させ、自らが自己の健康の保持増進出来るようにさらに促したい。
	・社会貢献への意識向上を図る。	・全校での献血啓蒙活動を行う。 ・卒業献血を実施し、赤十字血液センターの献血に協力する。	3		・昨年度までで、献血活動連続51年実施。今年度も3年生による献血は、希望者が200名を超え、ひとつの個人ができるボランティア活動として多くの生徒が賛同してくれた。しかしながら、学校休校・遠隔授業の延長により実施が困難となり、中止の判断に至った。献血者数の不足が懸念される中で、生徒自身も学校としても少なからずの貢献をしたかったが残念であった。次年度の実施に向けて、現2年生に「献血の手引き」を配布し啓発を促した。

評価基準 5:十分達成できている 4:達成できている 3:概ね達成できている 2:不十分である 1:達成できていない

評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	評価	総合評価	反省・次年度への課題
教育相談部	・教育相談・カウンセリングの充実を図る。	・教育相談室やカウンセリングルームを整備し、生徒が相談しやすい環境を整え、生徒の抱える問題や悩みに適切に対応する。	5	5	・教育相談室は、生徒からの相談のほか、教室に入れない生徒の別室学習の場所として有効に活用された。今後ニーズの高まりに応じてより多くの生徒に対応できるよう、更に環境の整備を進めたい。カウンセリングの予約は、HPや担当教員を通じて適切に行われ、生徒・保護者の相談に活用された。
	・個に応じた適切な生徒支援を行う。	・担任・学年主任・部活動顧問・養護教諭・カウンセラーなどとの連携を緊密にし、情報を共有することで、個に応じた適切な支援を行う。	5		・月1回教育相談報告会を実施し、各学年からの報告をもとに養護教諭、カウンセラーと情報を共有し、対応を検討してきた。報告会以外にも、担任・学年主任と教育相談部が相談し、別室学習をはじめ個に応じた支援を迅速かつ適切に行うことができた。次年度は制度を整備し、よりきめ細やかな支援を継続したい。
	・校内研修の充実を図る。	・生徒支援や生徒対応についての研修会を実施したり、教育相談の分野に関する情報や方法を教員に提供したりすることで、教員全体で生徒理解と対応に努める体制を整える。	4		・「SUUO教育相談だより」を4回発行し、適時、生徒や保護者にメッセージを届けた。コロナ禍のため教員研修会は実施できなかったが、2回実施した「自己評価調査」について、活用のポイントをまとめた資料を作成し、教員への周知に努めた。今後、教員全体が教育相談・生徒支援に関する理解をより深め、生徒理解と対応に努められるよう体制を整えたい。
評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	評価	総合評価	反省・次年度への課題
渉外部	・魅力的なPTA活動を目指す。	・総会や常任委員会、各種委員会の出席率を高め、活発な意見交換を促す。 ・視察研修、講演会等のPTA行事への参加者を増やす。	4	5	・今年度はコロナ禍のためPTA総会・PTA研修会という大きなPTA行事が中止を余儀なくされた。しかし、学校のシステムなどを利用しながら常任委員・各種委員の方のおかげで創意工夫を施したPTA活動を行うことができた。来年度も同じような状況になるかと予想されるが、PTA会員とコミュニケーションをとり、その都度対策を練りながら行っていきたい。
	・機能的な組織作りを目指す。	・システム(お知らせメール・資料アーカイブ等)を活用し、会員との双方向の意見交換を可能にする。	5		・今年度のPTA総会や第2回常任委員会、PTA講演会アンケートに関してはアンケート機能を用いて意見をいただいた。コロナ禍だと従来のPTA行事は難しくなってくるため、新たなアイデアが必要である。次年度もその部分をPTA会員とともに考えていきたい。
		・PTA会員の現状に則した機能的で効率的な組織作りを目指す。 ・限られた予算を有効かつ公平に多くの会員に還元できる企画・方法を考える。	5		・今年度はコロナ禍ということもありPTA講演会の観覧方法を3つの方法(会場で観覧・ライブ配信・見逃し配信)で実行した。今後もより公平かつ還元できる企画・方法をPTA会員とともに模索していきたい。
評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	評価	総合評価	反省・次年度への課題
生徒募集部	・安定した入学者数の確保を図る。	・単願者数増加を目指し、インセンティブの強化に加え、受け入れ窓口活動を重視する。個々の志願者に対し、丁寧な対応をきめ細かく行う。	5	5	・単願者ならびに切り替え者が想定より多かったことは本校が評価された結果であると受け止められる。本年度から工夫した諸制度も増加の一因として功を奏した。次年度も中学3年生数減少の中で、引き続き丁寧な対応を心がけていきたい。
	・情報発信力を強化する。	・従来の紙媒体に加え、SNS、you tube、出願システムなど様々なデジタル媒体を有効に活用して、広報活動や事務連絡等を効果的に実施する。	5		・部員の作成するyou tubeなどにも多くの視聴があり、良い試みであったと考える。コロナ禍における入試ということで、受験生へ緊急に伝達すべき事項もあったが、出願システムがよく機能した。次年度はHPのイメージチェンジにシステム部と協力して取り組みたい。
	・教職員一丸となつての募集活動を展開する。	・管理職・企画会・職員会議など様々な機会を捉えて、募集活動状況の周知を図る。それにより、情報の共有、危機意識・目的意識の共有を行い、教職員の募集活動における一体化を目指す。	4		・教職員全体に対しての募集部からの発信という点では改善すべき点があった。一丸となつて厳しい募集環境を乗り切るため、次年度は職員会議等で、より綿密に状況説明を行うなどの機会を設け、教職員の募集活動における一体化を図りたいと考える。
評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	評価	総合評価	反省・次年度への課題
システム管理室	・安定稼働に向けた高い冗長性と可用性の確保。	・費用対効果を見極めつつ、事業継続性を高めるシステム構成の改善を継続する。	5	5	・動画コンテンツの配信が増大することに備え、インフラ強化を進める。
		・情報科と連携し、生徒がICT環境を円滑に活用できるようにする。	5		・連携が十分行えている。引き続き円滑な活用を継続する。
	・使いやすさや利便性をさらに向上させる。	・校務システム・教育システム・Office365(クラウド)の3つの環境を、適切なレベルで融合的に活用できるようにする。	5		・それぞれのいいとこどりができている。引き続きベストミックスな活用を進める。
		・メンバー各自がそれぞれの立場やスキルのレベルに応じて、そこにある問題についてシステム的に解決する方法を創造できるようにする。	5		・メンバー各自の強みを活かした提案や対応ができている。引き続き問題解決のための創造を行っていく。
	・水城のICTでコロナ禍以降の教育環境の新常態を支える。	・『遠隔授業』へ即座に切り替わりができたり、『ライブ配信』や『動画配信』などの動画系コンテンツの活用が充実できるように、研修や実践を行う。	5		・動画配信促進のためのシステム構築とその活用のための研修を通し、すそ野を広げることができた。この流れをより大きいものにして、様々な事態や生徒に対応できるようにする。

評価基準
 5: 十分達成できている
 4: 達成できている
 3: 概ね達成できている
 2: 不十分である
 1: 達成できていない

3. 学年

評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	評価	総合評価	反省・次年度への課題
1学年	・基本的な学習習慣を確立し、自らの意志で主体的に「学ぶ」ことのできる生徒を育成する。	・各教科とも連携して予習→授業→復習の学習サイクルを確立し、高校生として必要な家庭学習の質と量を確保することができるように指導する。また、朝自習や放課後のゼミ学習などを利用して、学習習慣の定着を図る。	5	5	・今年度定着させた学習サイクルをより意識し、2学年として必要な質と量を充実させていくように指導していく。朝自習や放課後のゼミ学習の内容を精選していく。
	・自らの将来の進路に関して真剣に考えることができる生徒を育成する。2年次に向けて適切な文理選択ができるように指導する。	・進路適性検査、キャリアガイダンス、教育課程説明会、進路講演会などを通じて、生徒たちが進路について真剣に考える機会を設ける。 ・学級懇談会や面談を通じ、保護者との情報の共有を図り、保護者・教員が共通理解の元で生徒の進路についてサポートすることができる環境整備に努める。	5		・大学出張講義や進路講演会を企画し、生徒たちの進路について考える機会をつくり、具体的な進路がより見えるようにしていく。 ・学級懇談会や面談を通じて保護者との情報共有を図り、受験に向けてサポートできる環境をつくっていく。
	・集団生活を送る上で必要な規範意識やコミュニケーション能力を育成し、国際社会に適応する人材の育成を目指す。	・林間学校やクラスマッチなどの学校行事やクラス内での活動、そしてボランティア活動を通して、生徒同士または生徒と教員がお互いに協力し合う経験を積み、生徒の積極的な校外活動を促し、他者との適切な関係性を築くことのできる成熟した大人への成長をサポートしていく。	4		・文化祭やクラスマッチ、修学旅行等の学校行事やクラス内での活動を通じて、生徒が積極的に活動できる場を更につくっていく。また社会の状況を見ながら、ボランティア活動や賞、検定など、積極的に校外活動に参加するように促し、成長のサポートをおこなっていく。
評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	評価	総合評価	反省・次年度への課題
2学年	・入試に対応できる十分な基礎学力を養成する。 ・生徒が自ら課題を見つけ、それを主体的に解決していく姿勢を養う。	・予習→授業→復習の学習サイクルを継続し、学習の質と量を確保することができるように指導する。 ・朝自習や放課後のゼミ学習などを利用して、学習習慣の定着を図る。 ・総合的探究の時間や小論文指導等を通じて、主体的に考えて行動する姿勢を養う。	4	4	・スタディサポート・定期試験・ベネッセ模試の結果を踏まえて担任が個別面談をして、高校生として必要な家庭学習の時間を確保と生活リズムについて細かく指導してきた。次年度は受験生として、今後の学習計画を考えさせ、実践できるように継続的に指導していく。
	・生徒が自らの進路について主体的に考え、3年次に向けてより具体的な進路目標の設定ができるように指導する。	・進路講演会、大学出張講義等の学年行事を通じて、生徒が進路について具体的に考える機会を設ける。 ・オープンキャンパスや大学説明会等に積極的に参加するよう働きかける。 ・小論文指導を通じて、自らを振り返り、自分を客観的に捉えることができるように指導する。 ・生徒との面談を複数回実施し、生徒の進路目標設定を支援する。 ・学級懇談会や保護者のための学習会等を通じ、保護者との情報の共有を図り、保護者・教員が共通理解の元で生徒の進路についてサポートすることができる環境整備に努める。	4		・進路講演会・適性診断・大学出張講義など学校行事を実施することで、生徒自身がより具体的に進路を考える機会を増やした。さらに、保護者のための学習会を実施し、大学受験に関する内容を提供し、家族でも進路について話す機会を増やした。次年度は生徒が主体的に考え、具体的な進路目標を設定し、実現できるように二者面談・三者面談などを通して指導していく。
	・集団生活を送る上で必要な規範意識やコミュニケーション能力を養成し、国際社会に適応する人材の育成を目指す。	・文化祭、クラスマッチ、修学旅行等の学校行事を通じて、生徒同士または生徒と教員がお互いに協力し合う経験を積み、他者との適切な関係性を築くことのできる成熟した大人への成長をサポートしていく。	4		・コロナ禍で学校生活が制限されたが、文化祭、クラスマッチを実施することができた。そのなかで価値観の違う他者と関わり、コミュニケーション能力を培い、協力して物事を成し遂げることの大切さを学ばせることができた。次年度も学校行事を通して最上級生として下級生の模範となるように継続的に指導していく。
評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	評価	総合評価	反省・次年度への課題
3学年	・生徒が進路について主体的に考え、適切な進路目標を設定できるようにする。	・二者面談、三者面談を定期的に行い、生徒と保護者の希望をきちんと把握する。 ・進路ガイダンスや進路講演会、学級懇談会、コース集会等を通じて、生徒と保護者に進路に関する最新の情報を提供し、進路目標設定の際に適切なサポートを行う。	4	4	・コロナ禍であったが、面談や講演会等予定通り行うことができた。また、教員が参加した大学入試説明会の情報を生徒に伝える入試説明会を実施するなど、適宜進路情報を提供できた。 ・就職と専門学校においても進路指導部と連携を取り、適宜適切な情報を提供できた。
	・希望する進路に応じた学力、新入試に対応できる学力を身につけさせ、希望進路を実現させる。	・授業を大切にするように指導する。 ・大学入試を意識した内容に移行し、レベルや内容について、きめ細かな授業・ゼミ・朝自習を行う。 ・一般選抜、学校推薦型選抜、総合型選抜それぞれの違いに応じた指導を展開する。	4		・年度当初から大学入試を意識した指導を行い、夏休み以降本格的な大学入試問題演習を行った。共通テストの対策も行ってきたが、想像以上に難化し、対応が難しかった。 ・生徒一人ひとりの状況に応じた受験指導(学校推薦型選抜・総合型選抜・一般選抜)を適宜必要な情報を提供しながら行うことができた。
	・基本的な生活習慣を維持させ、愛校心や道徳心を涵養し、社会の一員として主体的に行動できるようにする。	・クラスマッチ、文化祭等の行事に積極的に参加させ、他者との適切な関わり方を学ばせる。 ・挨拶、時間、身だしなみ、清掃指導を徹底し、マナーを向上させ、規範意識を確立させる。 ・保健室や教育相談部、カウンセラーとの連携を取り、生徒一人ひとりに対してきめ細やかな対応を行う。	4		・昨年度中止になった文化祭を実施し、他者との関わり方を学ぶ機会を設けることができ、規範意識が高くなった。 ・各部署と連携を取りながら対応し、生徒は昨年度よりも落ち着いた学校生活を送っていた。大学受験で精神的に不安定な生徒もいたが、生徒一人ひとりに対してきめ細やかな対応を心掛け行うことができた。

評価基準 5:十分達成できている 4:達成できている 3:概ね達成できている 2:不十分である 1:達成できていない